

2024年 第2回 須坂市水道料金等審議会 議事録(要旨)

○開催日時場所

2024年6月4日(火) 午後1時30分～午後3時20分
須坂市役所 本庁舎3階 305会議室

○出席者

委員(8名) 中島委員、湯本委員、中村委員、永田委員、大倉委員、小林委員
古川委員、吉川委員
幹事(2名) 勝山水道局長、中山上下水道課長
書記(8名) 千葉課長補佐、平林課長補佐、富沢(文)課長補佐、富澤(一)課長補佐、
宮川(俊)課長補佐、宮川(滋)係長、丸山主査、松原主査
委託事業者(2名)

○傍聴人

報道機関1社、市民1名

○配付資料

会議次第
須坂市水道料金等審議会名簿
経営戦略の現状分析と経営課題(水道事業)
経営戦略の現状分析と経営課題(下水道事業)
須坂市水道事業経営戦略(2019年度～2028年度)
須坂市下水道事業経営戦略(平成29年度～平成38年度)
諮問書(写し)

○会議の状況

- 1 開会(中山課長)
- 2 自己紹介
- 3 あいさつ(勝山局長…三木市長欠席のため)
- 4 諮問
 - (1)諮問事項
「須坂市水道事業経営戦略の改定について」
「須坂市下水道事業経営戦略の改定について」
 - (2)諮問理由

公営企業については、急速な人口減少に伴うサービス需要の減少や施設の老朽化に伴う更新需要の増大など、経営環境が厳しさを増す中で、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図るため、総務省より、すべての事業について 2025 年度までの経営戦略の改定が求められている。須坂市の水道事業及び下水道事業においても、人口減少により料金収入が減少していく中で、老朽化した施設の更新や近年多発している自然災害に対する施設の耐震化などにより多大な費用がかかることが想定される。

このような実情を踏まえ、将来に渡って安定的に水道事業及び下水道事業の運営を維持していくため、今後 10 年の経営の基本となる「水道事業経営戦略」および「下水道事業経営戦略」を改定したいので、貴審議会の意見を求める。

(3) 答申を得たい時期

2025 年 2 月まで

5 審議状況

(1) 経営戦略の現状分析と経営課題(水道事業)について

(2) 経営戦略の現状分析と経営課題(下水道事業)について

事務局より説明を行った。

これに対し、委員から出された意見・質問の概要は次のとおりである。

委員 数年前未収金が 1 億円超えたような情報を聞いたことがある。また、未収金が多額にある中で黒字経営できる仕組みについて。

事務局 給水収益は、水道利用者に請求した水道料金の総額を計上しており、未収金の有無に左右されず、収支がプラスであれば黒字となる。

公営企業会計の仕組みとして、水道料金を請求した時点で未収金となり、収入になると未収金ではなくなるため、実際の額は少額となっている。また、滞納者に対しては、分納誓約等も行っており、縮小してきている。

委員 水道事業、下水道事業ともに収益的収支と資本的収支があり、双方で数値を管理することは非常にわかりにくい。更新投資が大事というのはわかるが、物価上昇もある中で、平準化して今後どう費用を捻出するかが今回の審議の肝となると思う。

事務局 令和 5 年度に改定した水道ビジョンでは、更新投資を平準化できるような計画としている。

今後の費用は、経営戦略の見直しの中で意見をいただきたい。

委員 人口減少というが、須坂市に移住している方も多い。

事務局 世帯数は増加しているが、人口は減少している。

委 員 個人宅で漏水があり、その際は緊急対応をいただき大変助かった。

現状年間どれくらいの漏水があるのか。また、現状の料金では経営の維持は難しいかもしれないが、すぐの値上げというよりは、工夫を求めたい。

事務局 水道局に連絡がある漏水件数としては、年間 40 件程度発生している。古い管が残っていることから、今後も多くなる見込みである。

料金の値上げは、今後の審議会でも意見をいただく内容であるため、十分検討を行い工夫した結果になるように考えていきたい。

6 その他(事務局)

次回の審議会は、8 月上旬に予定

7 閉会(中山課長)